

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立耐久高等学校（定時制） 校長名：戸川 しをり

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

〈学校像〉 人とのつながりを大切にし、自分のペースで学び、明るく生きがいを持って自立を図る学校
〈生徒像〉 ・自分自身を認め、明るく生きがいを持って生活できる生徒
・自立して生活するために必要な基礎的・基本的な学力を身につけた生徒
・他者を認め、社会の様々な人々とより良い関係を築くことができる生徒
・様々な人々と協力し、精一杯、家族や地域社会のために力を発揮する生徒
・今後の人生や将来について考え、ひたむきに努力する生徒

学校評価の公表方法

本校ホームページにおいて広く公表する

現状・進捗度

A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）
D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（3月14日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	社会の一員として力を発揮するための、基本的な生活習慣の確立	B	担任が中心となって家庭との連携を密にし、可能な限り欠席や遅刻等を減少させる。	欠席・遅刻等の連絡を担当まで事前にできているか。また、欠席・遅刻等が減少しているか。	B	欠席遅刻連絡をすることの大切さも伝えながら粘り強く指導し続けた。	・今後も生徒1人ひとりの特性を理解しながら、教員はさまざまな側面から生徒支援にあたる必要がある。
			人間関係を円滑に運ぶため、登校時や下校時の挨拶指導に取り組む。	相手の方に視線を向け、自分から進んで挨拶ができているか。また、挨拶が日々の習慣になっているか。	A	自発的に挨拶ができる生徒が増えてきた。	
			社会のルールやマナーを守る態度を育成する上で、時と場に応じた言動を身につけさせる。	学校の決まりや約束事を守れているか。適切な言葉使いで人と接しているか。	A	学校の規則を守り、周囲に気を配りながら学校生活を送れている。	
2	自他を認め、人と豊かに関わろうとする態度の育成	C	授業や特別活動等、学校生活のあらゆる場面で自分の思いや意見を他者に伝えさせるとともに他者の思いや意見を共感して受け止めさせる。	学校生活全ての教育活動において、教師と生徒、生徒同士、積極的にコミュニケーションが図られているか。	B	学校行事を通し全学年で交流することで、多様な人と関わる経験ができた。	・全学年による学校行事への参加は、社会へ出てからの集団生活に必要な力の育成になるため継続し、今後は生徒が企画運営できる機会を増やしていく。
			集団作り学習等を通して、「人と関わることは苦痛なことではなく楽しいことである。」と実感させる。	集団作り学習や校外学習等に休まず参加し、積極的に取り組んでいるか。	B	集団作り学習や校外学習にはほぼ全員が出席し、他と協力し活動した。	
			生徒の抱える多様な課題に対応するため、全教職員による生徒支援体制の確立を図る。	毎日の振り返りで生徒の情報共有をし、支援体制を整えているか。必要に応じ s c や s s w 等を適切に活用しているか。	A	振り返りの時間に生徒の情報を共有することで、より適切な生徒対応がとれている。	
3	社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の養成	C	学び直しによる基礎学力と集中力の醸成を、基礎学習を中心に育成する。	基礎学習プリントに集中して丁寧に取り組んでいるか。	B	継続して取り組むことで基礎力の定着につながった。	・授業改善を行う。ICT を効果的に使用し、生徒の興味関心を高める。基礎学習の時間に用いるプリントの内容も生徒の状況に合わせ、工夫する。必要な生徒には長期休暇中に補習を行う。
			分かる授業及び生徒の主体的な参加を促す授業の工夫をする。	独自のプリント教材や I C T 機器の活用等、授業の工夫に取り組んでいるか。生徒の取り組みを適切に評価しているか。	B	Teams による作文の提出やアンケートの実施などを行った。効果的な利活用ができた。	
			今後の在り方として、多様な生徒の学びを保障するための校内システムの研究を行う。	現職教育等により、課題解決に向けて全職員で取り組んでいるか。	C	計画的に現職教育を実施することができなかった。	
4	将来の自分をより明確に描けるような進路指導の充実	B	外部講師による進路講演会・進路ガイダンス等の開催により、生徒の勤労観や職業観を育み、進路意識の高揚を図る。	大学・短大・専門学校への進学や正社員として企業等に就職することを第一希望とし、学習や学校行事に前向きに取り組んでいるか。	C	講演会の実施などで勤労意識を高める取り組みは行ったが、生徒には浸透しなかった。課題が残った。	・進路に対する意識の低い生徒がいる。1年生から就職ガイダンスや進路ガイダンス等を行う。卒業生を招いて講演を行う。
			進路実現を図るために、保護者や家庭等と連携し、生徒個々に応じた進路指導を適切に行う。	個人面談や三者面談を計画的に行い、生徒保護者の意向を把握し、希望の進路が実現できているか。	B	面談時だけでなく、日頃から本人保護者との意思疎通を図った。	
			ハローワークや地域のアルバイト先等と連携し、生徒に対し就職先等についての情報を適切に提供する。	応募前企業ガイダンスへの参加や求人票等に目を向けることにより、具体的な職業や企業を意識できているか。	B	ガイダンスへの参加を積極的に呼びかけたり、個に適した職の情報提供を行った。	

学校関係者評価（2月21日実施）

・現在、2年生の中で大学進学を目指して頑張っている生徒が多いことに関し、進路実現に向けて学習面でのサポートが必要である。

・小学校中学校で不登校だった生徒が、本校に登校できるようになっている現状を評価いただいた。

・近年、自分のペースで勉強できることや少人数の環境を望み、定時制を選ぶ生徒が増えている。そういった生徒のために本校定時制はなくてはならない学校である。

・定時制の生徒たちにも地域の取り組みに参加し、地域の方々と交流する場をもってもらいたい。